

7/5 初日

9条改憲迫る安倍氏 触れぬ首相

国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の原理を掲げ、これで一度も改正されていない憲法。国会では、野党も命め改正に前向きな勢力が増えてきて、影響する」の参院選で、与野党のキーマンは何を語っているか。

3日、千葉県八千代市の市民会館。自民党的安倍晋三元首相は声を張り上げた。「ウクライナを命をかけて守っているのは、ウクライナ軍、日本を守るのは自衛隊だ」。そして、改憲を訴えた。「9条を読んで、自衛隊の違憲論争にしつかり終止符を打つ」と力強く叫んだ。

安倍晋三は参院選後も出頭、公明の与党に、改憲論議に積極的な日本維新の会、国民民主を加えた4党は「一定の勢力を確保すると予測」「早くやらないと、すぐ次の選挙が見えてきて、議論が難しくなる」との見方を示す。この中の憲法を米国からの「押しつけ」と捉える右派路線を歩み、「戦後レジームからの脱却」を唱えてきた安倍晋三。自身の7年8ヶ月の政権で實現したかった改憲を、党最大派閥の領導として影響力を振るう岸田政権下で進める狙いだ。

本丸は、自衛隊を明記する9条改正だ。

「9条をやらないのはおかしい。9条を憲法書に譲る」とは、憲法審査会で与党側の筆頭幹事を務める新藤義孝氏に求めた。衆院憲法審査会は、与党と維新、國

民民主の4党が推進役となり、オランダの風を吹くの対応などをねぐら西田議長を重ねていた。

安倍晋三は、その場で9条も取り上げて、その場で9条も取り上げて、その場で9条も取り上げた。

新藤義孝は、安倍晋三の意向に沿う格好で5月の憲法審議での案を取り上げた。「憲法が理想」とした国際平和秩序の維持は実現しなかった。ウクライナの例を見ても明らかだ」と、改正の必要性を主張。維新、国民も改正の必要性や意義などに触れた。维

新は参院選の公約でも、平和主義、戦争放棄を維持したまま自衛隊を憲法に明記する改憲案を掲げた。これが、自衛の案とほぼ同じだ。

一方、野党第一党の立憲民主党は、安倍政権の流れをくむ改憲論議に強い警戒感を示す。「自衛隊は合憲だと多くの国民が思っている。違憲と叫われるから安定性がないとは全く思わない」。衆院太代表は、6月18

日のネット討論の番組でそう語った。

与党の公明も、9条改正とは同調していない。参院選の公約には、わざわざ「憲法9条1項、2項は堅持する」と書き込

んだ。山口那津南代表は「ほとんどこの国民は自衛隊は合憲で定着したい」と語り、衆参両院の3法に書かなければ自衛隊の仕事ができないところに、さじでない」と繰り返す。

もう1つ、改憲論議のものは野党第一党の立憲も受け入れていい。この参院選の候補資金は改憲とのような改憲派は半数を超える。

注目は、こうした政治情勢のもと、参院選後に岸田文雄首相が改憲とのような改憲で臨むかだ。

安倍晋三が街頭演説など、ウクライナ危機と絡めて改憲に熱弁を振るひつつ対照的に、首相立憲の泉健太代表

が多くの時間を奪へるのは物価高騰対策だ。憲法だけ、ほとんどの持続可能な社会をつくるべきのか、社会保障制度の抜本改革など過去の政権が先送りしてきた宿題が多い。首相は今後、何を優先課題に据えるのか。この参院選でも、具体像はなかなか見えない」とい。



公認候補の応援演説に立った安倍晋三氏=6月24日



維新の馬場伸幸共同代表



立憲の泉健太代表